



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

# つるかめ新聞



平成7年9月11日に第1号の「鶴亀新聞」の発刊以来、25年が経過して、1度も休むことなく、記念すべき300号を迎えました。300号まで続けてこられたのは、“ボランティアの方々”や、“利用者様”、“入所者様”のご協力をいただいていたからだと感謝しております。

今月の表紙は、入所者様とデイケア利用者様の方々にご協力いただきました。恥ずかしいと言われながらも快くご協力いただきました入所者様、利用者様ありがとうございました。

今後とも利用者様と入所者様のあんじゅでのご様子や身近な話題をご家族の皆様へ届けられるように、頑張ります。400号に向けて、充実した広報誌作りに邁進してまいります。引き続きご愛読よろしくお祈いします。 【老健あんじゅ 広報委員一同】

## 新型コロナウイルス感染症の対応について

このところ感染者が増加していることから、8月31日(月)までを面会制限(面会禁止)としております。ご理解を賜りますようお願いいたします。

また、感染の状況によっては、禁止期間を延長することもありますので、予めご了承ください。

## 老健の理念

私たちは、「人道・博愛・奉仕」の赤十字精神を基本に、真心をこめて高齢者の尊厳をささえ安全で質の高いケアに努めます。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

小野田赤十字老人保健施設

あんじゃ



〒756-0889

山陽小野田市大字小野田3700番地

TEL0836-88-0222 FAX0836-88-4392

メール:osekiro@bronze.ocn.ne.jp

# つるかめ新聞300号記念誌発行に寄せて

つるかめ新聞は平成7年9月の創刊から、今号をもって300号を迎えました。院長・前老健看護師長からメッセージをいただきました。

## つるかめ新聞300号発行に寄せて

所長 清水良一



小野田赤十字病院の付帯事業として平成7年4月に開設されました介護老人保健施設「あんじゅ（当初80床で運用、現在100床）」は、今年が25年の節目の年に当たり、月1回発刊される「あんじゅ」の広報誌「つるかめ新聞」も、今月号で第300号を迎えることができました。

平成7年といえば、小野田赤十字病院の結核病床が廃止された年で、病院機能の転換点に当たる年でもありました。その5年後の平成12年には、日本国内において「介護離職者ゼロ」を目指す「介護保険制度」が発足し、介護保険で運用される老人保健施設の役割は、それまでの3か月程度を目途に在宅復帰を目指す中間施設としての役割のみならず、家族の介護離職者をゼロにするという大義のもとに、要介護認定を受けられた方の比較的長期間にわたる入所を受け入れることも日常的に行われる状況となっていました。その大きな要因は、平均寿命が伸び、健康寿命との乖離が男性で9年、女性で12年と広がることで、在宅復帰が叶わなくなる人口の割合が急増したことにあります。

そのような実情を踏まえ、国は看取りまでを念頭に長期療養を余儀なくされる要介護者に対して、「介護医療院」という新たな入所施設の運用を2年前から開始しています。小野田赤十字病院も、本年4月に「介護医療院（12床）」を開設したところです。

今後は、「あんじゅ」と「介護医療院」の運用状況を精査し、各々の施設について、当地域の実態に即した入所定員数を行政にフィードバックすることで、我が国の誇る介護保険制度の成熟・発展に寄与したいと願っております。

折しも、小野田赤十字病院は本年6月に病院機能評価機構による審査の結果、慢性期病院としての認定通知を受けたところであり、皆さま方のお力添えを頂きつつ、今後とも「あんじゅ」ともども当院を地域で必要とされる施設へと育てていただきますようよろしくお願い申し上げます。

## つるかめ新聞第300号発行おめでとうございます

前・老健看護師長 村上良恵



つるかめ新聞は、平成7年（1995年）9月の創刊から現在まで、25年間にわたり毎月発行されてきました。

「継続は力なり」と言いますが、毎月発行に向けた広報委員会で内容を検討し、できあがっていく新聞を見て、継続できている事の素晴らしさを楽しみ感じています。

老人保健施設には看護師長として2度勤務させていただきました。

初回は、日赤老健のさらなる発展に向けた『老健あんじゅ』への改称に携わることができました。全職員から名称を募集し、現在の『あんじゅ』に決定しました。

2度目は、どのような体制で看護・介護を提供することが利用者の皆様の笑顔に繋がるのか、日々考え、体制の転換に取り組みました。看護・介護職員の理解と協力のもと転換することができました。

季節ごとの行事では、猛練習を重ねダンスを踊ったり、楽器を演奏したりすることも経験しました。どれをとっても、それまでの私にはなかった画期的な経験で、楽しい思い出となっています。

つるかめ新聞には、それぞれの場面が素敵な写真となっております。おり、日赤老健の歴史を垣間見ることができます。

これからも、さらに進化しながら、継続して発行されることを願っています。



# つるかめ新聞と写真でふりかえる老健の出来事

おかげさまで、つるかめ新聞は300号を迎えることができました。今回は201号（平成24年4月）から299号（令和2年7月）までのつるかめ新聞を振り返って老健あんじゅの出来事をたどってみたいと思います。

## 平成24年9月（第205号）



平成24年8月30日に前山陽小野田市長様が百歳を迎えられた入所者様一人ひとりに記念品を各々に手渡されました。

## 平成25年1月（209号）



ボランティアの方々に、病院とあんじゅの玄関前に立派な門松を設置していただいています。

あんじゅでは平成24年1月からボランティアの方々による門松の作製が開始しました。



当時のボランティアの代表者の中元稔さんは、現在もコンサートで楽しませていただいています。



## 平成25年12月（第220号）



全国公募の「第2回ふれあいつながる作品展」で通所リハビリテーションを利用されている利用者様の作品「手形富士、がんばろう日本！」が特別賞を受賞しました。



8年間で、あんじゅの利用者さんは、数多くの作品を作成されました。どれもみな立派な作品でしたよ。

## 平成26年8月（第228号）

8月にはデイケアでは、そうめん流しを楽しんでいらっしゃいます。



## 平成26年10月（第231号）



平成26年10月に行われた「第20回秋の大運動会」のテーマは「和」。応援合戦では、職員がその年話題になった人に変装し会場を笑いにつつませました。

## 平成30年9月（第277号）



毎年9月の恒例行事の名称を「盆踊り」からあんじゅ「夏祭り」へ変更しました。ゲームコーナーを行ったり、ステージでは職員がショーを披露しました。

# デイケアのご案内

「玄関から玄関まで」を基本に、利用者様の身体・歩行状態、ご自宅周辺の道路状況等に応じて送迎いたします。乗降時の介助、車内の見守り等は安全を確保するために、必ず運転手と介護・看護職員の2名で行っています。



八月は、デイケアの利用者さんが、夏にちなんだかわいいちぎり絵を作製されました。

# 老健の出来事



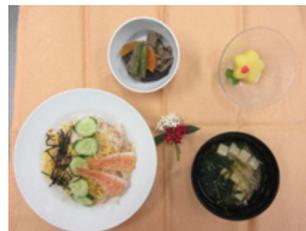
8月4日、誕生日会をしました。今月の誕生者にインタビューをして、誕生日の思い出についてお聞きしました。

## 9月の入浴日変更について

月	火	水	木	金
9/21	22	23	24	25
敬老の日	秋分の日	介助浴・特別浴 (入所者全員)	介助浴	特別浴

## 今月のおすすめ献立 ④8

～ 7月の誕生日会のメニュー～



- ・ 鮭のちらし寿司
- ・ 炒り煮
- ・ 吸い物
- ・ 星の和菓子

入所者さんより好評だったメニューを載せています

### 編集後記

新型コロナウイルスの感染が全国的に再び広がりを見せるなか、8月になりました。山口県内でも数日ぶりに感染者が増え始めています。感染しないために、3密(密閉、密集、密接)を避け、マスクの着用、手洗いを徹底し体調管理に努めていきましょう。

私は一人暮らしをしていますが、自粛期間中は自宅で動画アプリを見ながら、ヨガやダンスをして時々、体を動かしたりして過ごしました。また、自宅に好きなお花を飾ってお花鑑賞をしました。なかなか友人や知人と集まることができなかったのでオンライン飲み会もしました。オンライン飲み会とはスマートフォンやパソコンなどでwebを利用した飲み会のことです。思っている以上に簡単にできて外出する必要もないので良いです。自粛していたらコロナ疲れになりますが、自分なりの気分転換が大切だと気付かされました。今後も気分転換をしながら体調管理に気をつけていきたいです。

AIK

